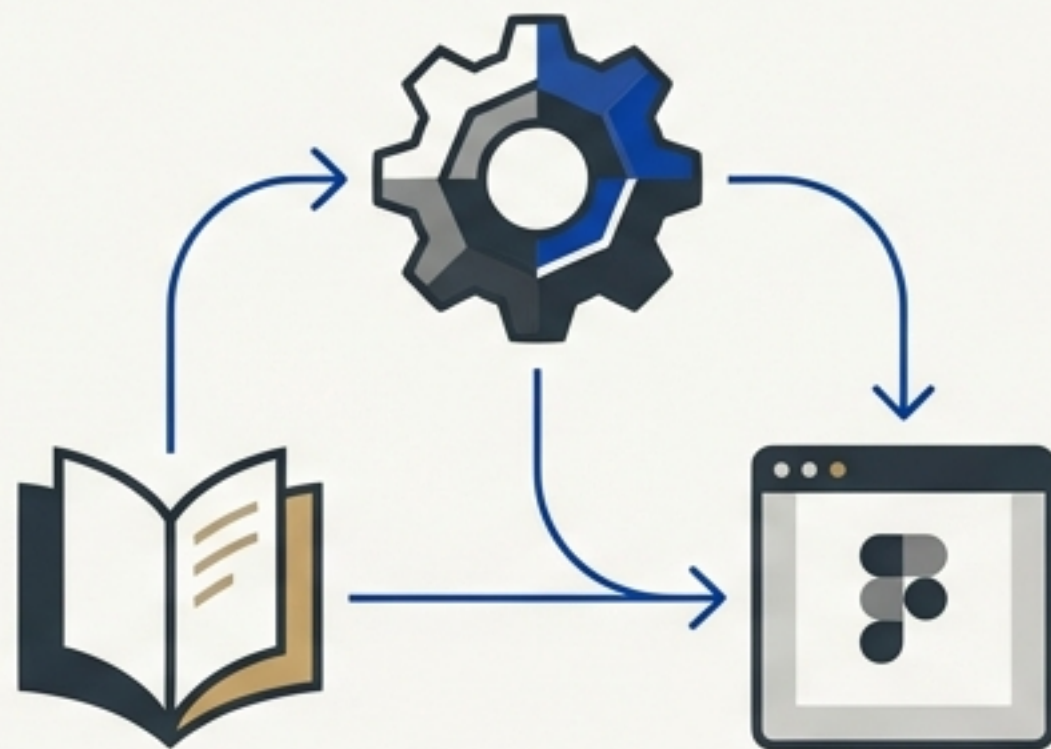


AIが拓く、次世代のUI刷新ワークフロー

NotebookLM × Gemini 活用による開発速度と品質の両立



プロジェクト内部提案資料

なぜ今、UI刷新が我々の最優先事項なのか

UI刷新は、単なるデザイン変更ではなく、将来の製品成長を支えるための戦略的投資です。



ユーザー体験の向上

最新のデザイントレンドと操作性を反映し、顧客満足度と定着率を向上させる。



開発効率の改善

レガシーな設計資産を整理し、将来の機能追加やメンテナンスの速度を飛躍的に高める。



競争優位性の確保

競合製品に先んじた、モダンで直感的なインターフェースを提供することで市場でのリーダーシップを確立する。

現行ワークフローに潜む、3つのボトルネック



1. 移行漏れのリスク

画面の入力項目は複雑化しており、現行仕様から新デザインへの手動での移行は、ヒューマンエラーによる仕様漏れのリスクを常に内包している。

2. 属人化するルール維持

デザイナーが作成したHTML/CSS/JSの細かなルールや命名規則を、手作業で完全に遵守し続けることは極めて困難。品質のばらつきが発生しやすい。

3. 非効率なレイアウト作業

Figma上で、既存の画面要素を一つひとつ手作業で再レイアウト・再配置する作業は、プロジェクト全体の工数を著しく増大させている。

「現状維持」がもたらす、見過ごせない事業リスク

品質低下と手戻りコスト



仕様漏れやデザインガイドラインからの逸脱は、QAフェーズでのバグ修正や手戻りを誘発し、プロジェクトコストを直接的に圧迫する。

開発速度の鈍化



手作業による非効率なプロセスは、市場投入までの時間を長期化させ、ビジネス機会の損失につながる。

イノベーションの停滞



デザイナーとエンジニアが反復的な手作業に追われることで、より創造的で付加価値の高い業務にリソースを割けなくなる。



我々が目指すゴール： 高精度・高効率・高互換性の実現

1. 絶対的な正確性 (Accuracy):

全ての資料(刷新方針・デザインルール)を100%遵守し、仕様漏れや解釈ミスをシステムで撲滅する。

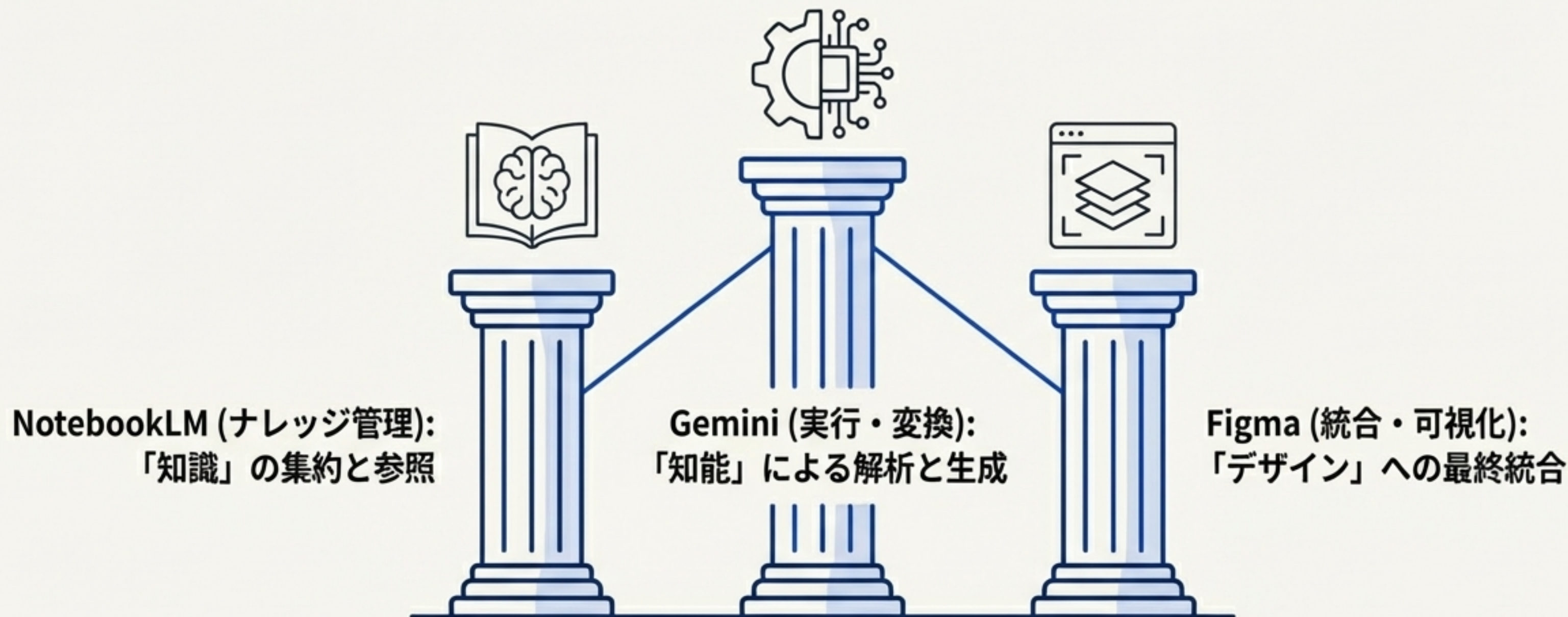
2. 圧倒的な効率性 (Efficiency):

AIによる項目抽出とコード生成を最大化し、手作業によるFigmaでのレイアウト工数を抜本的に削減する。

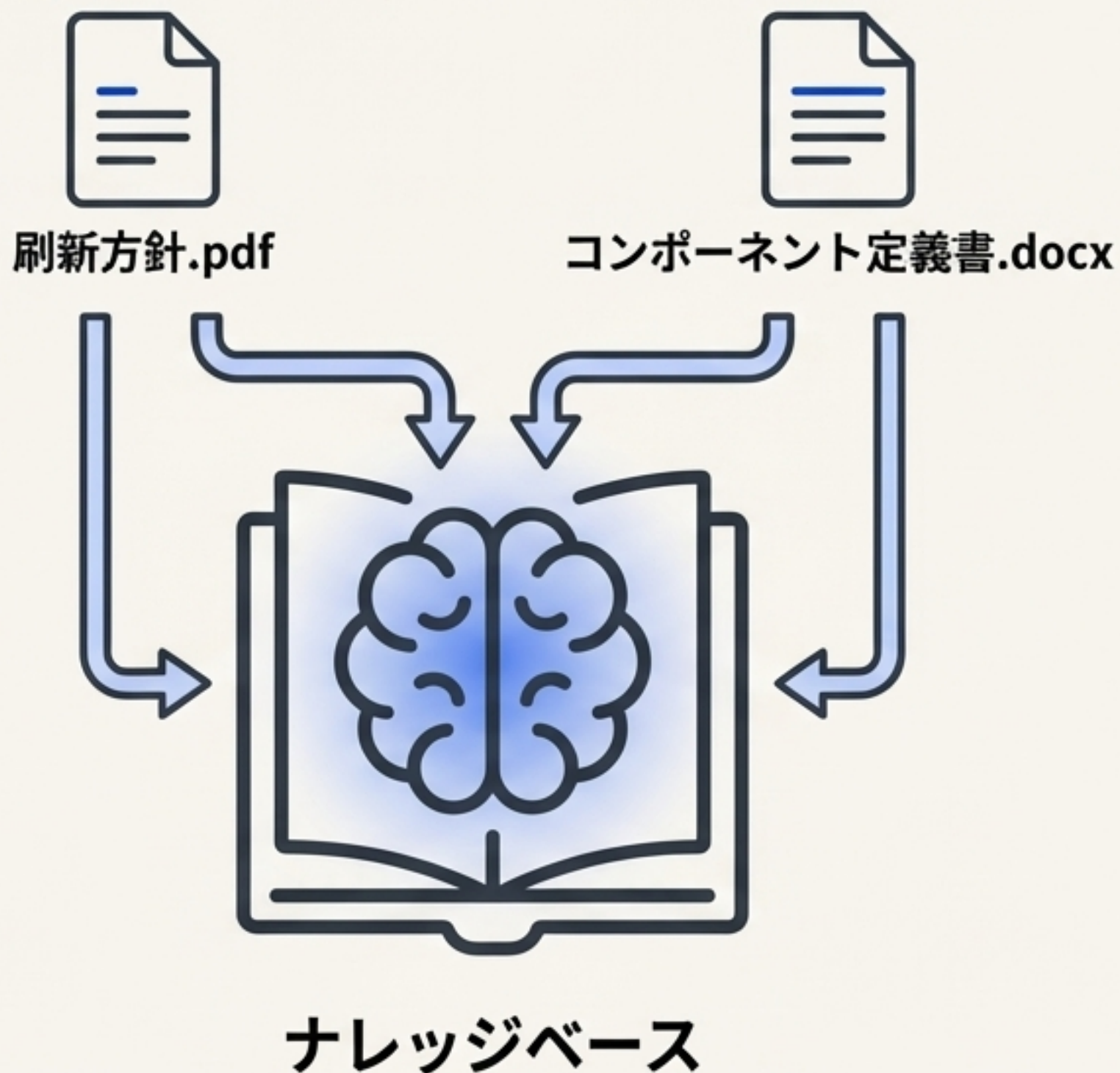
3. 完全な互換性 (Compatibility):

既存のJavaScript資産を一切破壊しない実装を保証し、移行リスクを最小化する。

解決策：3つの柱で支える AI連携エコシステム



特定のツールに依存するのではなく、各AIの強みを活かした
役割分担を行うことで、ワークフロー全体を最適化します。



Pillar 1: NotebookLM - ルールを司る「唯一の辞書」

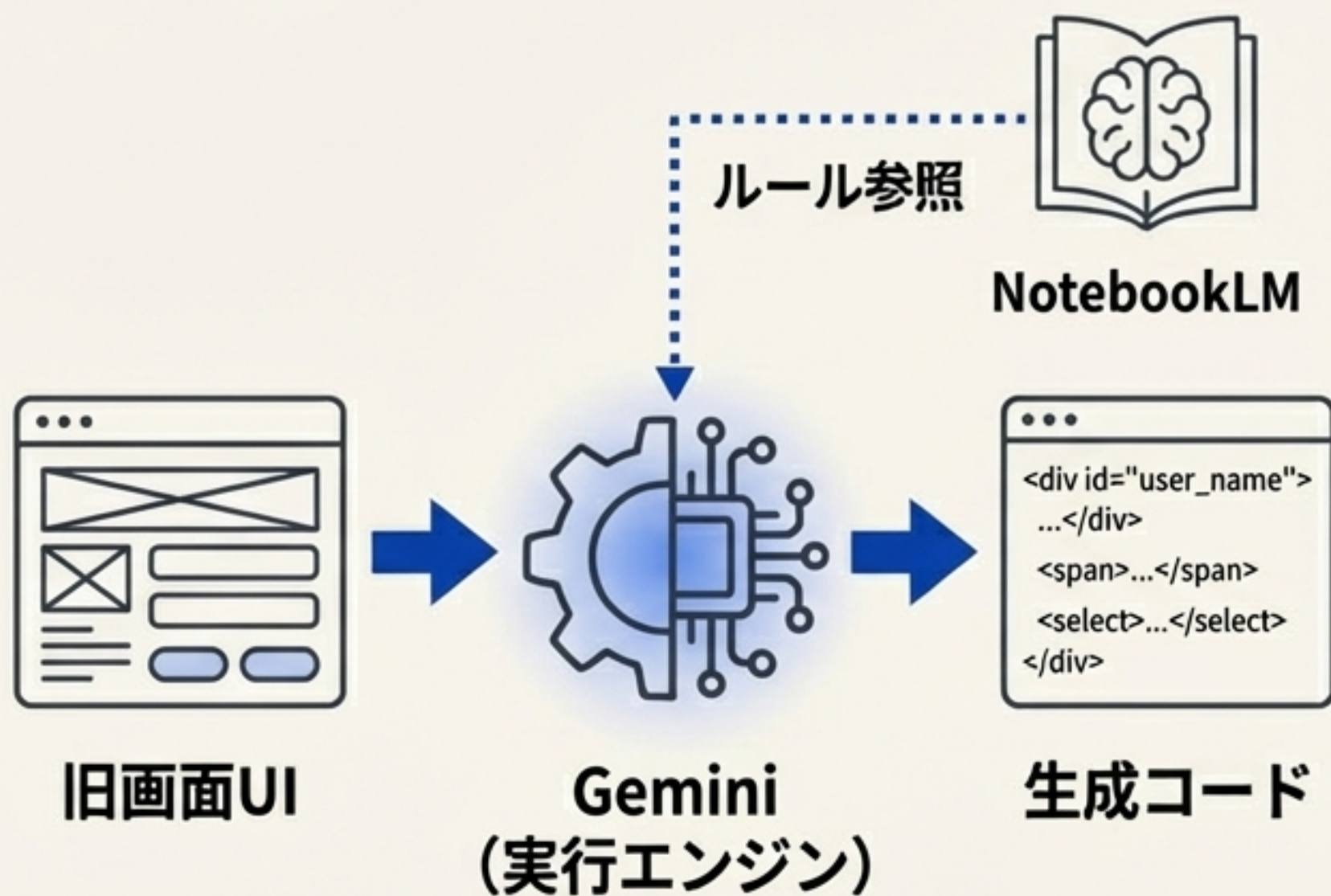
役割:

プロジェクトの「憲法」となる全てのドキュメント（刷新方針、デザインルール、コンポーネント定義書）を一元的に管理・インデックス化するナレッジベース。

機能:

Geminiからの問い合わせに対し、常に最新かつ正確なルールを回答。これにより、人間による解釈のブレや知識の属人化を完全に排除する。

提供価値: **一貫性 (Consistency)**



Pillar 2: Gemini - 現行資産を解析・変換する 「実行エンジン」

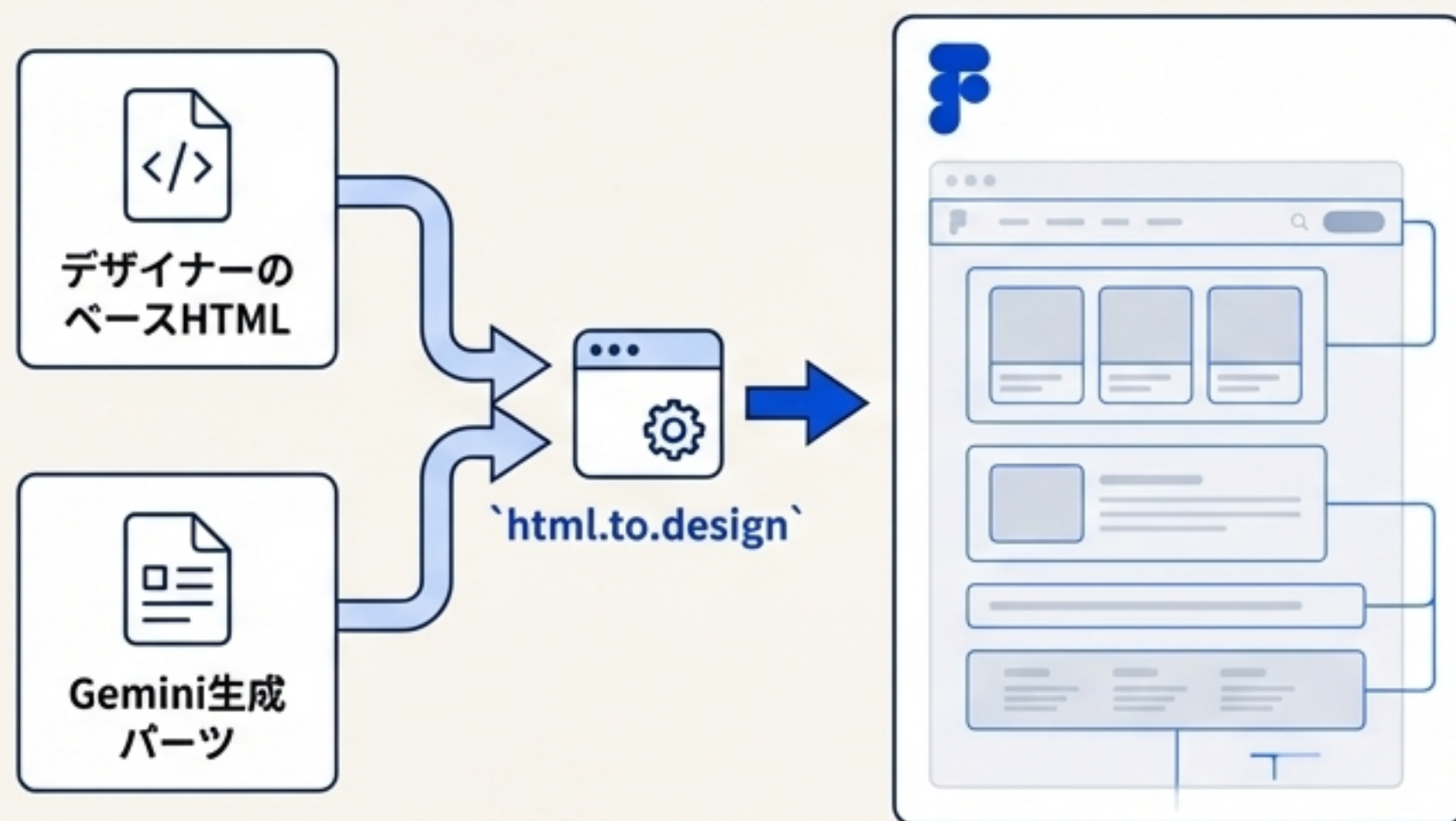
役割:

現行画面のキャプチャを画像認識し、必要な入力項目やコンポーネントを正確に抽出・リストアップする。

機能:

NotebookLMに定義されたルール（例：「この項目はドロップダウンにする」「ID属性は`user\_name`とする」）に完全準拠した、新しいHTML/CSSコードを自動生成する。

提供価値: **自動化 (Automation)**



Pillar 3: Figma - AI生成物を統合する「デザインキャンバス」

役割:

デザイナーが用意した共通のベースHTML（ヘッダー、フッター等）と、Geminiが生成したコンテンツパーツHTMLを統合し、最終的なUIデザインを可視化する。

機能:

‘html.to.design’プラグインを活用し、生成されたHTMLコードを瞬時に編集可能なFigmaレイヤーに変換。ここからデザイナーによる微調整や仕上げが可能。

提供価値: **統合（Integration）**

新ワークフローの全体像：3ステップによる高速UI設計

資料分析 (Analysis)



Input: 刷新方針, コンポーネント定義書

Action: ルールと「守るべき型」のインデックス化

Output: クエリ可能なナレッジベース



項目抽出と設計 (Design)



Input: 現行画面キャプチャ

Action: NotebookLMのルールを参照し、画像認識とHTML生成

Output: 新コンテンツのHTML/CSSコード



デザイン統合 (Integration)



Input: デザイナーのベースHTML, Gemini生成パーツ

Action: `html.to.design` を用いたインポートと統合

Output: 編集可能な最終UIデザイン

期待される効果：工数削減・品質向上・リスク低減

圧倒的な工数削減
(Cost Reduction)



最大50%以上削減
(推定)。

手作業によるFigmaでの画面要素の配置・調整作業を大幅に削減。プロジェクト期間を短縮し、市場投入を加速。

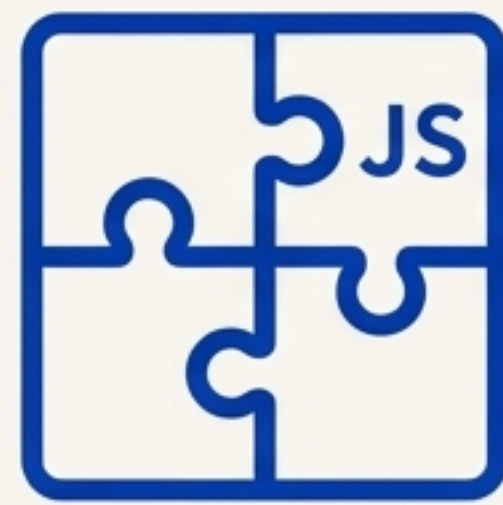
飛躍的な品質向上
(Quality Improvement)



NotebookLMによるルールの徹底により、デザインガイドラインからの逸脱や仕様漏れを系統的に防止。

属人的なミスを排除し、全画面で一貫した品質を担保。

確実なJS互換性
(Risk Mitigation)



ID属性や既存のDOM構造を維持したコード生成により、既存スクリプト資産との親和性を担保。

移行に伴うデグレードのリスクを最小化。

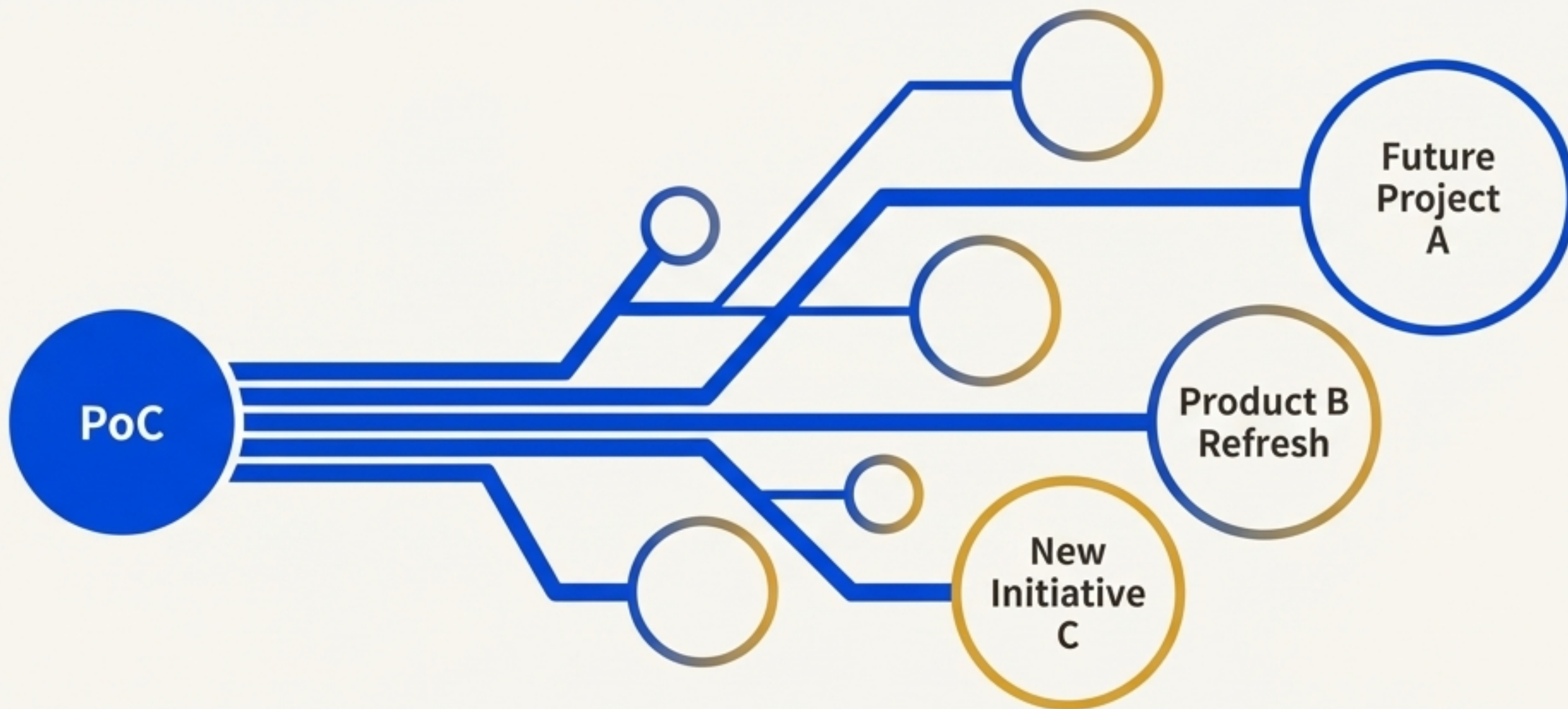
成功への道筋：まずはPoCで効果を実証

本ワークフローの有効性を検証するため、リスクを限定したPoC（概念実証）の実施を提案します。

PoC計画案

対象範囲（Scope）	実施内容（Tasks）	成功基準（Success Criteria）
代表的な入力項目を持つプロトタイプ画面（1画面）を対象とする。	1. NotebookLMへの主要ドキュメント投入と解析。 2. 対象画面でのAIワークフロー（抽出→生成→統合）の実施。 3. 生成されたFigmaデザインとHTMLの品質・工数評価。	✓ 手作業と比較して、Figmaレイアウト工数が30%以上削減されること。 ✓ デザインルールからの逸脱が0件であること。 ✓ 生成されたHTMLが既存JSと互換性を持つこと。

UI開発の未来を、このプロジェクトから創造する



最新のAI技術を戦略的に組み合わせることで、私たちは属人的なミスを排除し、高品質なUI刷新を短期間で実現する新しい標準を確立します。

このPoCを承認いただき、次世代のUI開発ワークフローへの第一歩を共に踏み出しましょう。